

# とやま 日季

しあわせも、  
五感も育つまちへ。

魚津市ミラージュランド

特集: 大島恵さん・康寛さん 今日の朝ごはん: 柿谷朔郎さん・英理さん とやまで深呼吸: あさひ舟川「春の四重奏」  
こだわりのお店を開くひとたち: Atelier ANORM、HUTTE、林ショップ とやま巡礼: 塙生護国八幡宮 とやまの品: ZAF

# 自然豊かな魚津から、マカロンを全国へ。

魚津市 | 大島恵さん(35) 康寛さん(36)

富山県東部にある魚津市。港町として知られるまちの中心部で暮らすのは、大島恵さんと康寛さん夫妻、そして、2人の子どもたち。東京や神奈川での暮らしを経て、康寛さんの故郷に2017年に移住した。恵さんはマカロン専門店を開業し、全国からの注文に対応するなど子育てや家事、仕事に忙しい日々。自然豊かな富山で、子どもたちの五感や可能性を育てたいと話す家族の思いを伺った。





## フリーランスのママを応援したい。

毎週末、手作りのマカロンが店内に並ぶ「ココマカロン」。オーダーメイドをメインに、アイシングで可愛らしい絵柄が繊細に描かれ、贈り物として人気が高い。お店を営むのは茨城県出身の大島恵さん。それを支えるのは夫で会社員の康寛さん。恵さんは「贈る方、贈られる方の心をつなぎたい」と語り、心を込めてスタッフとともにマカロンづくりに励む。最近はネット販売で全国から注文が入る忙しい毎日だ。さらに、恵さんはフリーランスで働く、忙しく悩めるママたちを支援し、ビジネス面でも互いを高め合おうと「ココママ」という任意団体を立ち上げ活動している。

恵さんは大学卒業後は管理栄養士の資格を取得し、東京都内でCMなどのフードコーディネーターの仕事に従事。レストランやケーキ店でも調理技術を磨いたのち、大手食品メーカーでフードコーディネーターとして働いていた。その社内で出会ったのが、夫となる富山県魚津市出身の大島康寛さん。康寛さんには、いずれは自然豊かな富山に帰り、地元のために何かをしたいという思いがあった。2人とも登山やアウトドアが趣味ですぐに意気投合。1年も経たずに結婚し、将来の富山での生活を想定して、海のそばの神奈川県藤沢市で新婚生活を始めた。そして、子どもが生まれて1歳の頃には魚津に帰郷することに。

康寛さんは首都圏在住の富山県出身の若者ネットワーク「acoico」に参加し、人づてに富山での仕事を見つけていた。恵さんは「10年後ぐらいのつもりでいたので早いなと。でも、魚津に家を建てて、私が趣味でつくっていたマカロンのお店をやろうとニンジンをぶら下げられて(笑)。よく考えると、仕事がある若いうちに帰るのがベストかなと。前向きになり、とても楽しみになりました」と振り返る。





おおしまめぐみ、やすひろ 富山県魚津市で暮らす大島さん夫妻。妻の恵さんは茨城県生まれで都内の手作りのマカロンを県内外に販売。フリーランスのママを支援する活動も行う。康寛さんは大手メーカーでの勤務時代、地元のために活動する友人たちから刺激を受けて魚津へ帰り、富山市内の企業に転職。休日は子どもたちと富山の大自然の中で遊ぶほか、地域のための活動にも汗を流す。

ココマカロン 魚津市釈迦堂1-7-13 TEL: 0765-88-0478 ウェブサイト <https://cocomacaron.thebase.in> インスタグラム @cocomacaron25

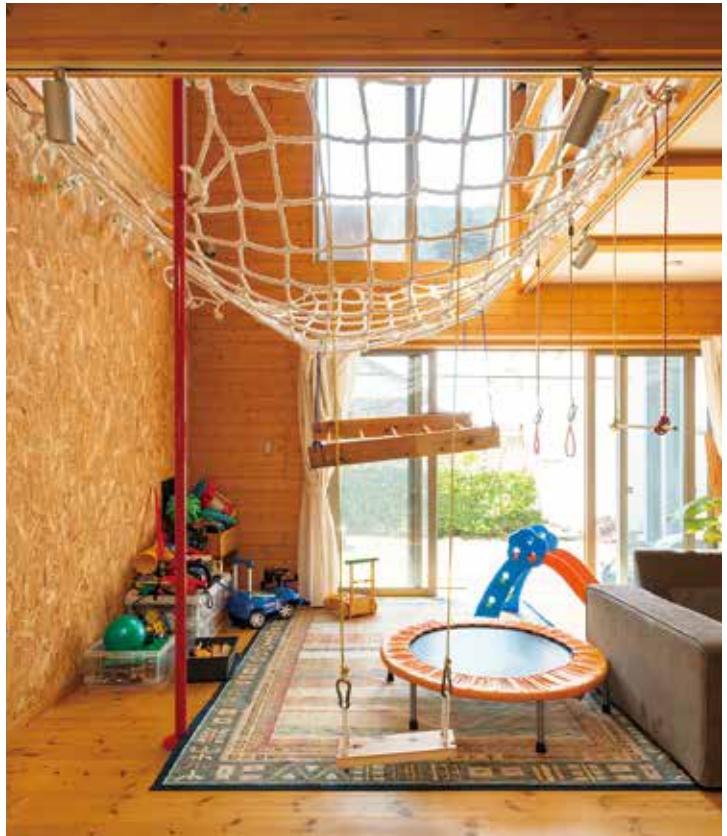


## 子どもの五感を育てる、富山の暮らし。

康寛さんの実家の畠があった広い敷地に2人は自宅を新築し、工房や店舗も併設。忙しい恵さんを気遣い、康寛さんは週末は子どもたちと遊ぶ時間を大切にする。そもそも、魚津での暮らしは康寛さんの強い希望がってのことだ。

康寛さんは地元の高校を卒業後、都会への憧れから都内の大学の理学部に進学。卒業後は大手食品メーカーに営業職として就職した。「長野での勤務時代に富山に帰ることがあり、山や海での遊びの楽しさを味わい、地元のために動いている熱い友人たちと出会って、故郷の良さを初めて認識したんです。これから先は、大企業の決まったレールの上を歩くのではなく、富山に帰って自然豊かな暮らしを満喫しながら、まだ、ぼんやりとでしたが、地元のために何かを始めたいと考えるようになりました」。康寛さんは現在、会社員の傍ら、プライベートでは地域の様々な職種の仲間たちと魚津を盛り上げようと活動する。公私で同じ仲間とイベント開催やまちの活性化のために協力し合うこともあります、その面白さを感じている。

休日には家族で近くの海辺やダム湖でカヤックや釣りを楽しんだり、黒部峡谷の温泉、冬はスキー場など、自然の中へ出かけることが多い。家のリビングには大きな吹き抜けがあり、広い庭には芝生を植えてピザ窯を作った。いずれも、子どもたちがのびのびと遊べる空間だ。恵さんは「富山は五感を育てるまち」と語る。「雪の冷たさ、川と海で違う水の感触、獲れたての旬の食べ物の香りなど、味や肌など五感で感じられることが多く、それを大事にしたい。小さいうちは子どもにいろいろな経験をさせて、感受性豊かに育てながら、将来の可能性を広げてあげたい。富山、魚津は子育てには最高の場所だと日々、実感しています」





《富山の達人たちのとておきの朝》

# 今日の朝ごはん

富山市・柿谷朔郎さん、英理さん

窓から差し込む陽の長短が、山麓の季節の移ろいを住む人に教える。自然ゆたかな粟巣野にある家具工房「KAKI」。工房隣の一軒家に、家具職人の柿谷朔郎さん・英理さん夫婦は暮らす。「山の朝は静か。庭を鹿が通り過ぎることもあります(笑)」(朔郎さん)

高校生と小学5年生の息子2人の4人家族。6時半からの朝食はどんなに慌ただしくても揃って食べるのがルール。「朝ごはんは生きる基本。夫も子どももよく食べます」と英理さん。

献立で心がけるのは「普通であること。無理しないこと。ずっと続していくものだから」。奇をてらわず、日常を大切にすること。英理さんの朝ごはんは、朔郎さんの作る無垢の家具と通じるものがある。

テーブルに出るのは前の晩の煮込み料理。これに卵焼き、サラダが定番。この日は、実家の父が育てた大根や里芋を煮込んだ「芋煮」。かつお出汁と醤油のやさしい味が体にしみる。

今では子ども達が自分で食べたいものを作ることも。「パンに好きな具をのっけたり、ソーセージを焼いたり。私がいなくなっても自分で生きていくよう、小さい時から手伝いをさせてきました。おかげで2人とも作って食べることが大好き」。からだと心、生きる力が育つように。それが、英理さんが15年間以上こつこつ朝ごはんに込めてきたもの。長男は春から寮生活で家を出る。英理さんの味が彼らの根っこを支える。

今朝のメニュー：英理さんのご実家（富山市福沢）で作るコシヒカリ／同じくその畑で獲れた大根と里芋、牛肉の芋煮／砂糖と牛乳が隠し味の卵焼き／キャベツのサラダ／コーヒー

かきたにさくろう、えり 富山市粟巣野で58年の歴史を持つ「KAKI CABINET MAKER」にて、家具の製作を行う柿谷さんご夫妻。結婚後、創業者で叔父の故・柿谷誠さんが建てた自宅に移り住んだ。自宅は普段ショールームとして公開され、キッチンやリビングなど生活風景の中で家具の色合いや温もりを確かめることができる。朔郎さんが家具作りで大切にすることは「木のそのままの表情を生かすこと。長く愛着を持てるデザインであること」。キッチンは朔郎さんが英理さんの要望を聞いて造り替え、それ以外の食器や調理道具などは先代から受け継いだもの。時計の針がゆっくり進む休日は、40年間以上使い込んできたアメリカ製のスキレットでホットケーキやフレンチトーストを焼く。「普通の卵料理がふっくらと美味しいくなるんです」



—とやまで深呼吸—

人の優しさで、

春は輝く

◎あさひ舟川「春の四重奏」



雪をいただく北アルプス朝日岳、舟川べりを彩る280本のソメイヨシノ、菜の花、そして、鮮やかなチューリップの絨毯。

いまや富山県を代表する春の名所の一つになった『あさひ舟川「春の四重奏」』。この絶景は、実は一軒のチューリップ農家の熱い想いから生まれた。

日本一のチューリップ球根生産地、富山县。朝日町舟川新地区でも、かつて30軒ほどの農家が球根を栽培。しかし、現在は「有限公司チュリストやまざき」さん一軒に。

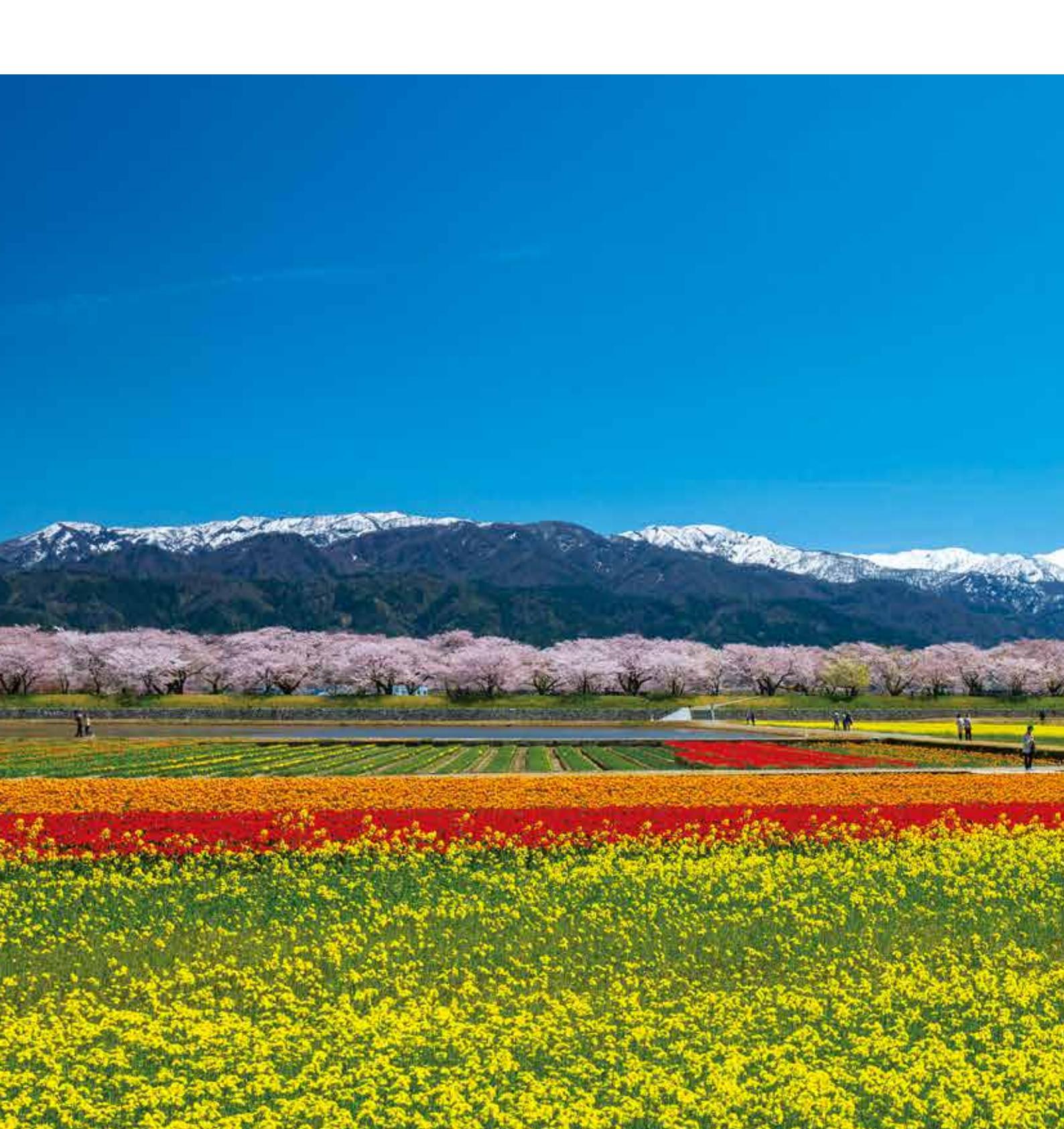
同社の山崎久夫さんが桜の開花に合わせ、極早生のチューリップと菜種油用の菜の花を咲かせ、人を楽しませたいと考えたのが始まり。戦後、地域で植え、大切に守ってきた舟川べりの桜並木は、チューリップの花びらを肥料に見事な枝ぶりで咲き、映画『春を背負って』のタイトルバックになつた。優しさに満ちた人の営みが、春を輝かせていく。

例年、4月10日前後が「四重奏」の見頃だが、その年により開花時期は変化。桜のライトアップもあり、訪れた日によって、様々な風景が楽しめる。球根の生育と病気予防のため、畑の中やあぜ道は立ち入り禁止。農地や近隣の住宅にはご配慮ください。

富山県下新川郡朝日町舟川新　あいの風とやま鉄道「泊駅」から臨時バスで約10分、北陸自動車道「朝日IC」を下りて約5分、会場周辺は混雑あり。土日は、無料シャトルバス運行。最新情報は朝日町観光協会のウェブサイトやSNSで。

■朝日町観光協会 TEL: 0765-83-2780

<https://www.asahi-tabi.com/sijuusou>



# こだわりのお店を開くひとたち

「センスが良い」と噂に聞くその店は、どれも店主のこだわりがギュッと詰まっている場所でした。今回は、富山の街に差し色となるような彩りをもたらしてくれる個性豊かな3軒をピックアップ。店主自身のルーツをはじめ、富山の街で店を開いた経緯や店への思い、こだわり、そして今後の展望について話をうかがいました。記事を読んだあとは、ぜひお店にも足を運んでみてくださいね。



ここにしかない出会いと刺激、  
人に愛される店を目指して。



## Atelier ANORM(アトリエ アノーム)

護国神社に伸びる平和通りから一本中に入った通りにある「Atelier ANORM」は、フラワーアーティスト・西淵吏英(にしふちりえ)さんが営む花の店。店内には、市場で厳選されたカラフルな花たちが顔を揃える。

幼い頃からお母さんと一緒に山や野原で拾った材料でリースを作り、やがて自ら花を買い、部屋に飾ったりドライフラワー制作にも取り組むように。そして今から7年前、祖父母宅をアトリエにドライフラワーやリース制作をスタートさせていった。

「花は逃げ道だった」と、西淵さん。「仕事で煮詰まっていた時に、土を触り花を飾ることで逃避していたんです。でもそれが何よりも癒しだったことに気づきました」と振り返る。

結婚式の装花の仕事などが徐々に増え、仕事としての幅は次第に広がりを見せていった。ある日「自分が伝えたい空気感、花の楽しさは直接人と関わり、その場に花があるからこそ伝わる」と考え、店舗を構える決意が固まっていく。そして2019年11月、自身のアトリエを富山市内にオープンした。「細く長く、人に愛される店にしていきたいです。ここに来ると何だか元気になる、そんな場所になれば」と西淵さんは笑顔を見せる。



店では生花、ドライフラワーの販売、ピンテージの花器やインテリア周りの雑貨をセレクト。また不定期でワークショップも行っている。オープン時に制作したオリジナルのフラワー バッグも人気だ。「花束を買う人も貰う人も、花束を持ち歩くことでハッピーな気持ちになってもらえたなら」という西淵さんの思いが込められている。オリジナルバッグは小さいサイズと大きいサイズの2種類を用意する。

■Atelier ANORM 営業時間：11:00～18:00 定休日：不定休 富山市西四十町5-24  
TEL：070-1072-1337 <https://www.atelieranorm.com>





## 居心地と着心地が融合した スタイルのあるセレクトショップ

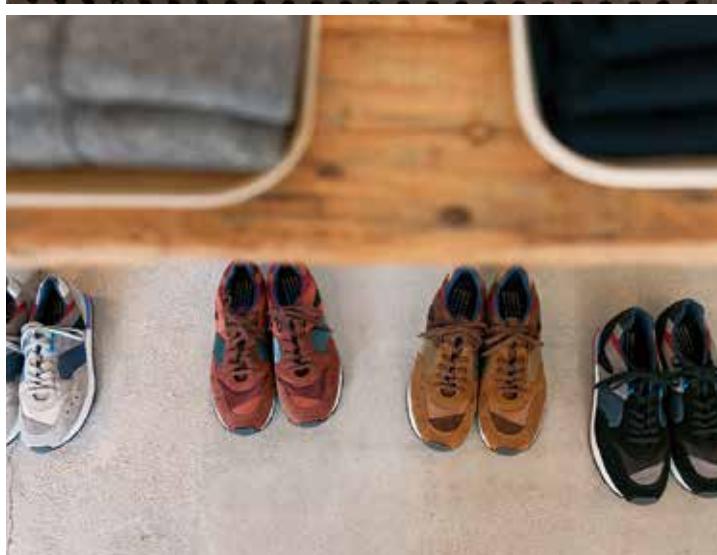
### Hutte(ヒュッテ)

閑静な住宅街の一角にあるセレクトショップ「Hutte」。この店を営む浅野真由美さんは、いつもシンプルでかっこいい大人の姿を見せててくれる。

浅野さんは高校時代から富山市内のアパレルショップでアルバイトをし、アメリカの文化や洋服にのめり込んでいた。服飾の学校へ進学すべく、18歳で上京。東京のアパレル会社に就職後、海外でシルクスクリーンに挑戦したいと決断し、渡米を果たした。シルクスクリーンスタジオのアシスタント、結婚を経て帰国。「主人が海外に住みたい」というのでお試しのつもりで帰ってきたんですが、日本が気に入ったみたいで今に至ります」と浅野さんは笑う。

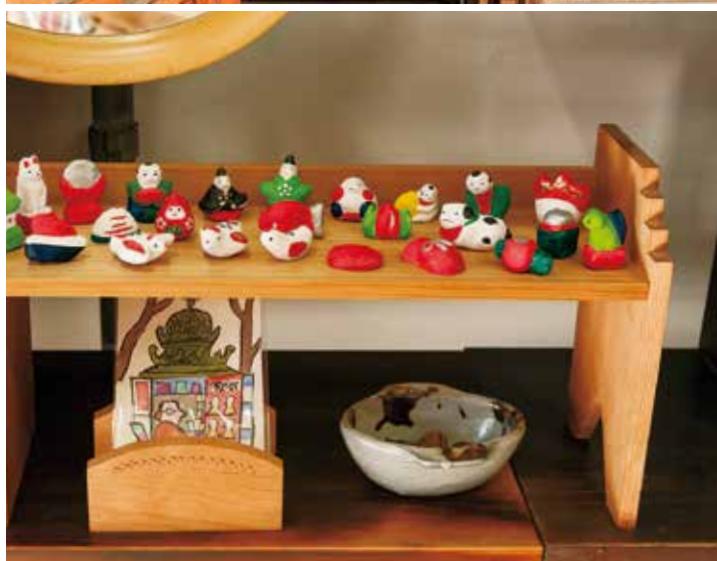
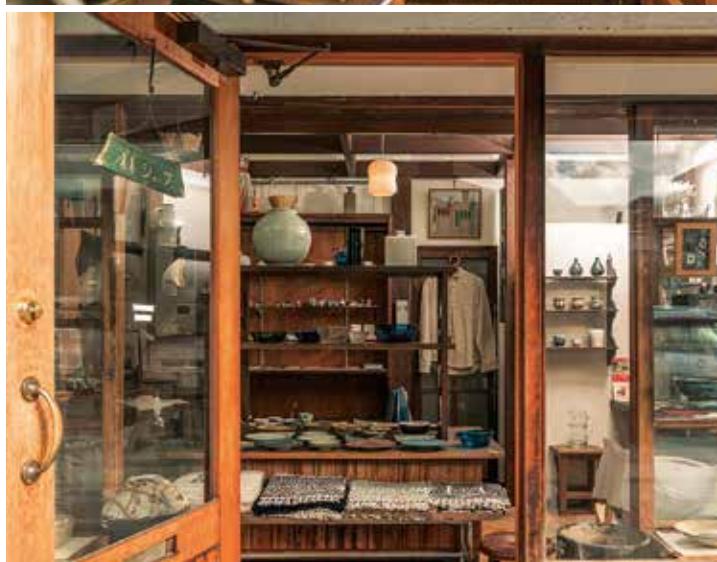
帰国後は都内のカシミアメーカーに勤めていたが、解散を機に帰郷。知り合いから「自分の店を持ったほうがいい」と言われたことや、お客様との繋がり、物件などの条件が合致し、2019年3月に「Hutte」をオープンした。

シンプル、機能性、着心地の良さを持ちストレスフリーのものが好き。ワークウェアと上質な服、アウトドアな物を合わせるのが浅野さんのスタイルだ。「着心地の良いものを着ていると1日が楽に過ごせる。基本はベーシックだけど、そこに自分らしいものをアレンジしていくことを提案できればと思っています」



「Hutte」の名前の由来は「山が大好きで、よく登山をするんです。小さな山小屋の存在も好きだったことと、短くてすぐに覚えてもらえる名前がいいなと。いくつかある候補の中から山小屋を意味する『Hutte』を選び、付けました。富山っぽくていいなと気に入っています」とのこと。また友人とブランド「tannossa(タンノッサ)」を立ち上げ、企画を担当。デニムをはじめ、多くの商品を手掛けている。同ブランドの商品は店頭に置いている。

●Hutte 営業時間：11:00～19:00 定休日：月火水木、詳細はインスタグラムにて  
富山市東中野町2丁目3-12 TEL：076-481-6886 <https://huttestore.com>



## 迷いのないセレクトで 多くの人を魅了する民芸品の店

### 林ショップ

富山市総曲輪通りの裏通りにある長屋の一角。正面から見て一番左にあるのが、林悠介さんの店「林ショップ」だ。主に民芸品を取り扱い、それらはすべて林さんが丁寧に選んでいる。

林さんの暮らしの中には、祖母が好きだった民芸品がいつもあったという。ただそれはあくまで日常だったこともあり、民芸の面白さを知るようになったのは大学でデザインを学ぶ中でのことだったと振り返る。

大学を卒業後、表現としての「写真」にのめり込んでいった林さん。もっと経験値を積みたいとの思いから、26歳で東京で現像の仕事に就いた。しかし東京で3年半ほど経った頃、突然「店をやらないか」との話が叔父から舞い込む。「知り合いが43年続けた民芸の店を閉めるそうだが、悠介やってみないか」と叔父から連絡があったんです。びっくりしたのですが、民芸に影響を受けていたこと、祖母が通ったお店だったことがあり、やることにしました」と決意。富山に戻り店を持ってから、今年で11年が経った。

「小さい時から、『もの』に対しての見方が自然と培われた気がします。商品を仕入れる際の判断だけは最初から自信があったと言いますか…。今でも選ぶものに対して迷いはありません」と力強い言葉を聞かせてくれた。

ここ最近では、いろいろ一人ではできないことが増えてきましたと話す林さん。これからは人にも頼りながら、新しいことをしていきたいとの構想を持つ。「自分自身でデザインと原型制作している高岡鋳物は、今後はオブジェだけではなく機能的なものも作っていきたい。また、日常生活の中で必要な物なのに意外とないものにも焦点を当て、作り手と共に手がけていけたら」と話す。

●林ショップ 営業時間：11:00～19:00 定休日：火水、不定休あり 富山市総曲輪2丁目7-12 TEL: 076-424-5330

鳥居の八幡宮の「八」の文字は、八幡神の使いである二羽の白鳩の形を表す。その右手の手洗鉢には、白鳩の案内によって源氏勢が清水を得たという靈水「鳩清水」が水源から3kmを経て注ぎ込む。「とやまの名水五十五選」の一つでもあり、県内外から訪れる人が後を絶たない。108段の石段にて煩惱を踏み消せば、国指定重要文化財の本殿、釣殿、幣拝殿に至る。

小矢部市埴生2992 <http://hanyu.main.jp>

写真：左上より時計回りに、社殿、鳥居の神額、脇参道の石段、鳩清水



令和の今は、地域の守り神として神事や祭事に賑わう場であり、豊かな緑や名水を求めて人々が訪れる場となっていると同時に、武将の心の拠り所として栄えた物語を後世に伝える役割をも担っている。

鳥居の八幡宮の「八」の文字は、八幡神の使いである二羽の白鳩の形を表す。その右手の手洗鉢には、白鳩の案内によって源氏勢が清水を得たという靈水「鳩清水」が水源から3kmを経て注ぎ込む。「とやまの名水五十五選」の一つでもあり、県内外から訪れる人が後を絶たない。108段の石段にて煩惱を踏み消せば、国指定重要文化財の本殿、釣殿、幣拝殿に至る。

武将の心の拠り所は、  
色褪せない物語として。

## 埴生護国八幡宮

# とやま巡礼

富山県西部の玄関口として、古くから開けた小矢部市埴生。俱利伽羅峠の東麓、旧北陸道につながる表参道から108段の石段を登りきると、鬱蒼とした樹木に包まれた社殿に至る。ここ埴生護国八幡宮は、奈良時代に宇佐八幡宮の御分靈を迎えたのが始まりとされる。平安時代の末には、戦勝祈願書を収めた木曾義仲が、平維盛の大軍との決戦に勝利し、戦勝祈願社として名を馳せた。その神力にあやからうと、戦国時代には武田信玄、佐々成政、遊佐義親などの祈願と寄進が盛んに行われた。そして江戸時代には加賀藩の祈願社となる。現在の社殿は、加賀藩によって造営寄進されたもので、桃山時代の神社建築としての趣を今に残している。こうした歴史的背景を今に伝えるのが宝物殿だ。木曾義仲が国民を救うために戦いに挑んだことや、地元の侍の援軍によって地の利に明るかつたことなどを知ることができる。

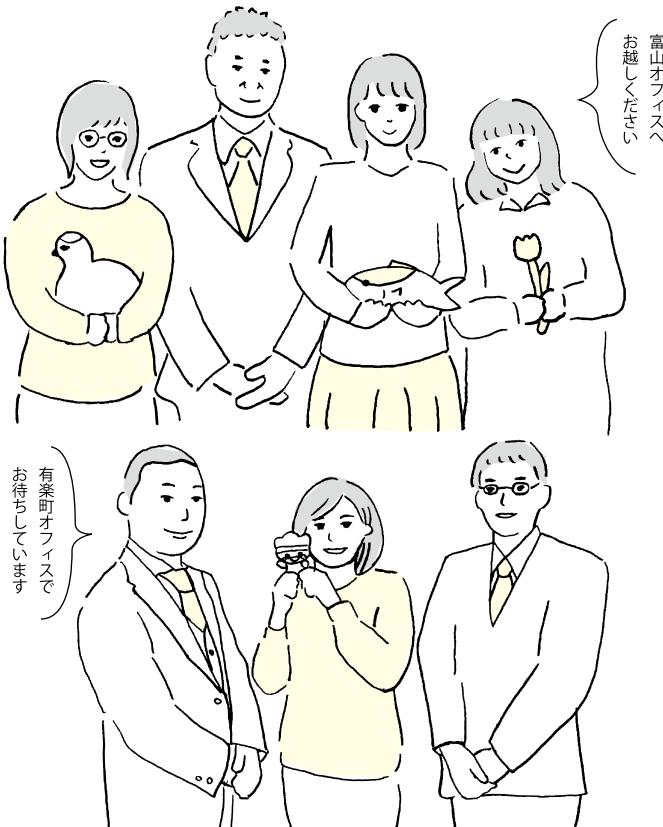
## とやま暮らしのことなら、 富山くらし・しごと支援センターへ。

とやま暮らしに関するご相談、移住支援制度のご案内、富山県内の現地案内のほか、仕事面も、経験豊富なキャリアカウンセラーが、就職面談、面接指導なども含め、就職決定までしっかりとサポートします。また、移住者の生の声が聴けるセミナーも開催しています。

富山オフィスと有楽町、大手町、大阪、名古屋オフィスが相互に連携し、暮らしと仕事の一元的な相談に対応しています。

とやま暮らしがいいなと思ったら、富山くらし・しごと支援センターへお気軽にご相談ください。

◎富山くらし・しごと支援センター ◎有楽町オフィス(東京・有楽町／東京交通会館内) くらし  
TEL: 080-8870-2456 しごと TEL: 070-2798-7878 ◎大手町オフィス(東京・大手町／パソナグループ本部ビル内) くらし・しごと TEL: 0120-108-250 ◎大阪オフィス(大阪・道修町／(株)パソナ大阪内) TEL: 06-7636-6065 ◎名古屋オフィス(名古屋・栄／富山県名古屋事務所内) くらし・しごと TEL: 090-5171-1460 ◎富山オフィス(富山市／とやま自遊館 2F) くらし・しごと TEL: 076-411-9179 「くらしたい国、富山」ウェブサイト <https://toyama-teiju.jp>



## 東京23区にお住まいなら、 「移住支援金制度」をご活用ください。

東京23区(在住者又は通勤者)から富山県内に移住し、対象法人に就業した方に移住支援金を支給する制度が、今年度からテレワーカーや専門人材、移住先の市町村との強いつながりをもつ関係人口などへも対象を拡げることとなりました。東京圏への一極集中の是正や地方の中小企業等における人手不足の解消、新型コロナウイルス感染拡大によって加速化する働き方の見直しを目的としています。

富山県へのUIJターン就職を希望する方をサポートする、求職者と企業のマッチングサイトでも様々な情報を発信。

東京23区からの移住をご検討の方は、ぜひ、ご確認ください。また、ご親族やお知り合いの方で、富山への移住を検討している方にも、ぜひお伝えください。

<移住支援金> 世帯:100万円、単身:60万円 ※起業支援金 +200万円

<対象者の主な要件> 1. 東京23区の在住者又は通勤者(直近5年以上) 2. 富山県内への移住者 3. 移住支援金の対象求人に新規就業した方 等

<申請手続きの流れ> 1. とやまUターンガイドの求人情報をチェック 2. 対象法人へ就職活動 3. 就業 4. 移住先市町村へ移住支援金の申請手続き(就業3か月以上経過後)

※詳細は、下記へお問い合わせくださいか、ウェブサイトをご覧ください。

◎富山県総合政策局移住・UIJターン促進課 TEL: 076-444-4608 FAX: 076-444-4406



左: 富山県移住・定住促進サイト くらしたい国、富山 <https://toyama-teiju.jp>

右: UIJターン就職希望者と企業とのマッチングサイト とやまUターンガイド <https://uturn.pref.toyama.lg.jp>



からだと心を調えたい、いまに。



## Z A F

ZAF(ザフ)は「おうち坐禅」を気軽に始められる新ブランド。禅僧が坐禅を組むときに座る坐禅布団と同じ伝統的な製法で作られている。やさしい色合いの滑りにくい生地の中には、天然素材のパンヤがしっかりと詰まっている。「自分と向き合い、瞑想して心を調え、いまを生きることの大切さは、2500年前から変わらず仏教で伝えられていることです。それを若い世代にも知ってもらいたくて、ブランドを立ち上げました」と話すのは、ZAFのディレクターの竹澤賢人さん。自身も坐禅と瞑想の良さを実感していると語り、「5分からでもいい、様々な情報があふれるwithコロナの時代に、身体と心を調えるお手伝いができたら」と語る。

ZAFシリーズは、高岡で伝統の仏具装飾品を手がけるサカエ金襴の新ブランドとして、デザイナーの羽田純さんとともに開発。心が落ち着くようなカラーで、インテリアとしても洗練された雰囲気が楽しめる。カバーを取り外して洗えるタイプがあるほか、サウナ用のZAF SAUNAも発売され人気だ。日本では古くから寺院に蒸し風呂、サウナが設けられ、施浴が行われていた歴史がある。いずれの商品も、熟練の職人が縫製や綿詰めを行っていて、国内外でますます注目されるプロダクトとなっていきそうだ。ブランドサイトでは坐禅の方法も紹介されている。

⑩ブランドサイト <https://www.zaf-zen.com>

サカエ金襴株式会社 富山県高岡市問屋町59 TEL: 0766-25-0545